

小城市の子どもたちの学習基盤となる生活の状況と 学力状況（国語、算数・数学、理科） ～ 調査結果分析と今後の方針 ～

平成30年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査

平成30年度全国学力・学習状況調査

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、国語、算数（数学）、理科における全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証・改善サイクルを確立します。

2. 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

4. 調査内容

（1）教科に関する調査 …… 国語・算数（数学）・理科

国語・算数（数学）

A テスト（主として「知識」に関する問題）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

B テスト（主として「活用」に関する問題）

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

理科

- ・主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題

（2）児童生徒質問紙調査

- ・学習の基盤となる学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

平成30年度佐賀県学習状況調査

1. 調査の目的

- ・子どもたちが学習する教科等のうち、国語と算数（数学）について、学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- ・各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図ります。

2. 調査対象

小学校第5学年、中学校第1学年、中学校第2学年

3. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

4. 調査内容

（1）教科に関する調査 …… 国語・算数（数学）

（2）児童生徒意識調査

- ・学習の基盤となる学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

小城市全体の概要・考察

児童生徒質問紙調査・意識調査〔学習の基盤となる子どもたちの生活習慣・状況〕

- ・小中学生ともに地域の行事に積極的に参加をしており、小学生は地域や社会で起こっている問題や出来事への関心が高いという結果が出ました。
- ・毎日同じくらいの時刻に起きる・寝るなどの生活のリズム、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思える規範意識、地域や社会をよくするために何をすべきか考える態度が小中学生ともに全国と比べて高いということが分かりました。
- ・学校の規則を守ることについては、小学生は県や全国と比べて守れている割合が高いが、中学生は県や全国と比べて守れていないという結果がでました。
- ・自分にはよいところがあると思っている割合は、県や全国と比べて低い結果でしたが経年変化でみると小中学生とも年々高まっていることが分かりました。
- ・家庭学習については、中学生が県や全国平均よりも大きく下回っていました。学校の宿題をしている割合も県・全国平均より下回っているため、宿題の量・質に課題があります。
- ・平日に読書を30分以上している子どもは、学年が進むごとに減り、県平均を下回っています。
- ・携帯電話やスマートフォンを長時間利用している子どもの割合は学年が進むごとに増えており、携帯・スマホの所持率が年々増加していることや使い方のルールについても守れていないことから、早急に対策を講じる必要があります。



改善のポイント

・保護者や地域の方々には、日頃から熱心に学校教育活動へのご協力・ご支援をいただいています。そのことが、児童生徒の地域への関心の高まりにつながっていると思われま

す。今後とも家庭・地域と学校が連携を密にして、知徳体のバランスの取れた児童生徒の育成をめざしていきます。調査の結果を保護者にお知らせし、家庭での過ごし方、家庭学習の充実について、ともに考えていく姿勢が大切だと考えます。ご理解とご協力をお願いいたします。

教科に関する調査〔国語、算数（数学）、理科〕

・県調査では、中学校1年生は国語、数学とも県平均以上でしたが、小学校5年生、中学校2年生は国語、算数・数学とも県平均とほぼ同じでした。

・全国調査では、小学校6年生は国語、算数、理科ともに全国平均とほぼ同じでしたが、中学校3年生は国語、数学、理科とも全国平均を下回っていました。中でも、国語Bテスト、数学Bテストについては、全国平均と比べて大きく下回るという結果でした。また小中ともにBテストで全国平均を大きく下回っていました。

・全国調査では、小学校6年生・中学校3年生ともにAテスト（基礎）よりもBテスト（活用）の正答率が低くなっています。これは全国的にも同様の課題が指摘されているところで、基礎・基本を活かして、生活場面での様々な課題に活用する力を伸ばすことが求められます。

・観点別に見ると、「話す・聞く」「書く」が他の観点に比べ落ち込んでいます。算数・数学では、「数学的な見方や考え方」が落ち込んでいます。これは、県・全国にも共通している課題です。

・全国調査において、対全国比で昨年度と比較をすると、小学校6年生・中学校3年生ともに2教科4区分（国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B）で落ちていました。今回の結果を踏まえ、さらにきめ細やかで丁寧な指導を行い、小学校では活用する力を中学校では習得する力を育成する必要があります。



改善のポイント

・基礎・基本の定着を図るため、評価を随時取り入れ、児童生徒一人一人のつまずきを的確に把握することが求められます。その課題に応じた個別の補充学習を継続していくことや、チームティーチング・少人数指導のさらなる充実を図るなど、よりきめ細かな指導を強化する必要があります。

- ・思考力、判断力、表現力を高めるためには、課題解決をしていく中で、「考える場面」を積み重ねていくことが大切です。また、個人で問題を解くだけでなく、授業の中で学び合う活動を仕組むことがポイントだと考えます。ペアや小集団、学級全体で、理由や根拠を明らかにして自分の考えを説明すること、意見を交流しながら考えを練り上げていくこと等を通して、筋道立てて表現する力や有効性を判断する力などが身につきます。
- ・活用力をつけるには、授業で習ったことを生活場面へ応用してみる、逆に、発展的な学習として生活場面から問題を探し解決してみるといった学習を、意図的計画的に取り入れていく必要があります。
- ・日頃から自分の考えを持ち、書く習慣付けを図ることが大切です。

小城市教育委員会として

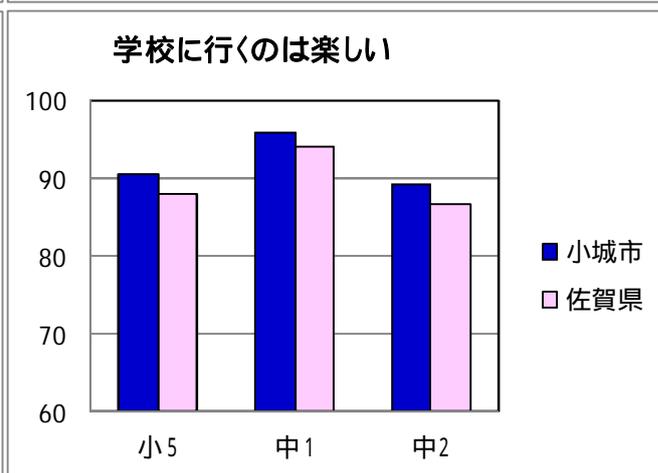
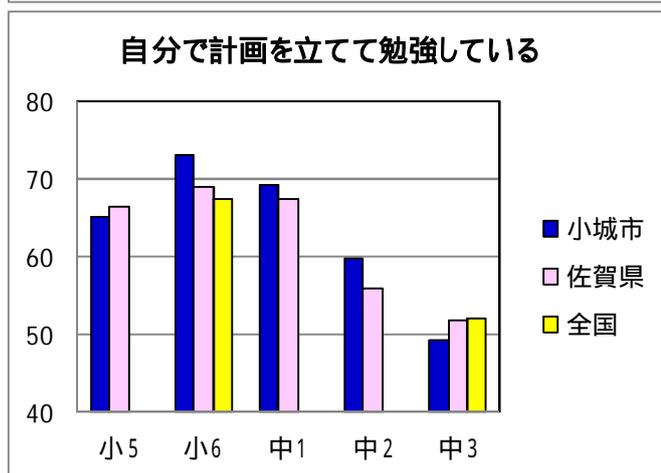
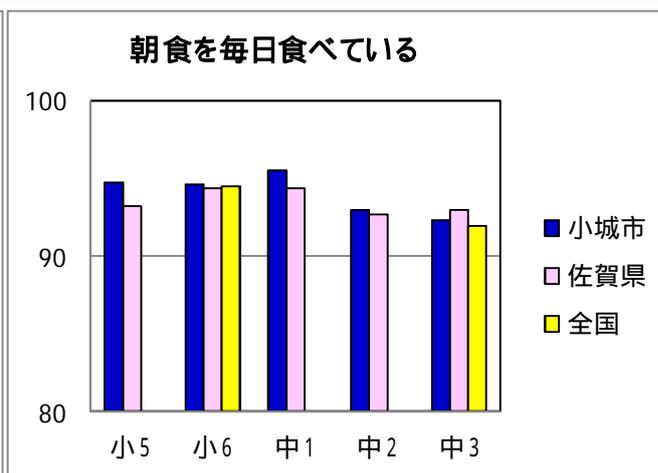
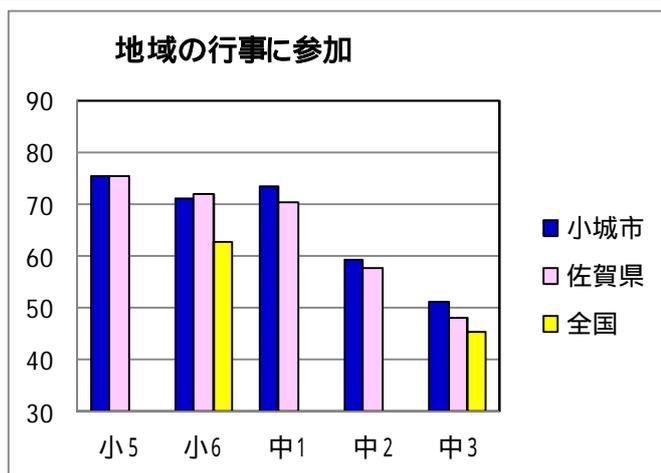
- ・各学校においては、今回の調査結果を分析して成果や課題を明らかにし、具体的な方策を打ち出すこと、全職員で課題を共通認識し、組織的に取り組むことを確認しています。
(市内すべての小中学校が、分析結果と方策をホームページ上に公開しています。)
- ・全小中学校への学校訪問を行い、東部教育事務所の支援を受けながら、校内研究の充実や組織的な学力向上の取組についての協議、指導助言を行い、各学校の取組の推進を支援します。
- ・指導方法の改善を図るため、11月7日(水)に小城市教育研究大会(小学校2校【牛津小学校、砥川小学校】、中学校1校【牛津中学校】の授業公開・研究会)を開催します。小城市全教職員が共に学び合うことで、指導力の向上に努めます。
- ・小城市学力向上研究会(小城市校長会委嘱)の専門部としてICT利活用授業研究部会を設置し、学力向上のツールとしてのICT利活用について、実践的研究を推進します。
- ・小城市学力向上コーディネーター等研修会で小城市の課題に沿った研修(思考力・表現力をつける指導方法改善・家庭学習の充実)を実施します。
- ・9年間でいかに個々の学力を伸ばすかといった視点に立ち、小中の連携した取組を進めます。
- ・すべての児童生徒がよく分かる授業づくりや個別支援の充実を図ることが学力向上に欠かせないことから、特別支援教育についての実践・研究を進めます。

個々の学校の結果については、各学校から公開される結果分析をご覧ください。

〔 資料 〕 生活習慣等に関する「意識（質問紙）調査」から

【 小城市の小・中学生のよいところ 】

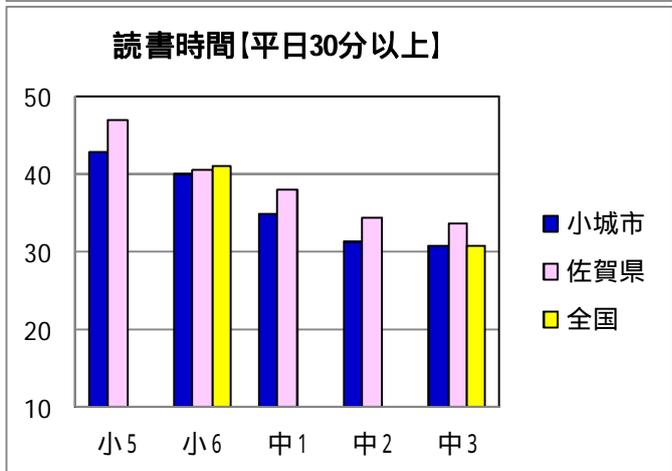
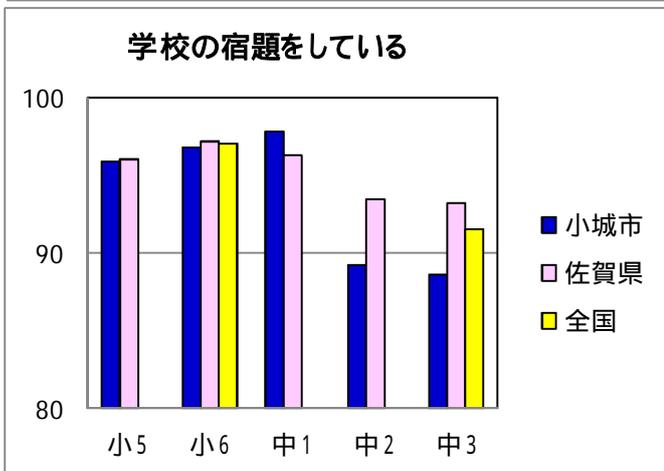
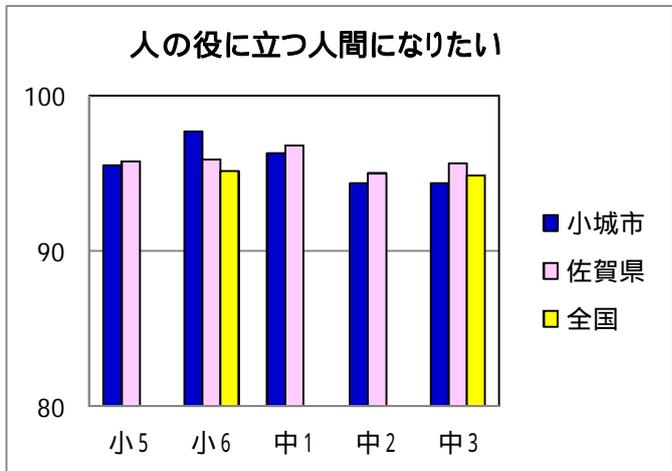
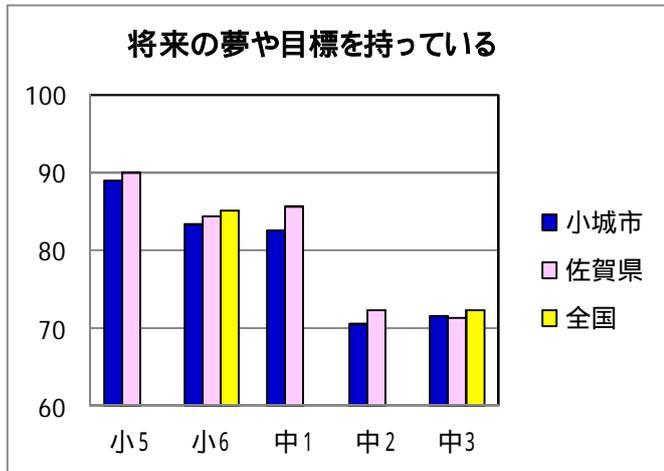
調査の項目
今住んでいる地域の行事に参加している 当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
朝食を食べている している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
自分で計画を立てて勉強をしている している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
学校に行くのは楽しい そう思う・どちらかといえばそう思うと答えた児童生徒の割合（県調査）



- ・小中学生ともに地域の行事に積極的に参加をしており、地域や社会をよくするために何をすべきか考えている児童生徒も多いという結果が出ました。
- ・朝食を毎日食べている児童生徒が多く、定時に起床・就寝もできており、基本的な生活習慣を身に付ける「早寝・早起き・朝ごはん」運動の効果がうかがえました。
- ・家庭教育指針や家庭学習の手引き等で提示されている具体的な学習の進め方が理解され、子どもたちの自主学習への取り組みが高まっていることがうかがえました。
- ・学校に行くのが楽しい、学校では落ち着いて勉強することができていると回答している児童生徒が多く、授業改善の取り組みの成果がうかがえました。

【 小城市の小・中学生のよくないところ 】

調 査 の 項 目	
将来の夢や目標をもっている	当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
人の役に立つ人間になりたい	そう思う、どちらかといえばそう思うと答えた児童生徒の割合
学校の宿題をしている	している、どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
読書をしている	平日30分以上していると答えた児童生徒の割合



- ・将来の夢や目標をもっている、人の役に立つ人間になりたいと回答した児童生徒は4学年で県平均を下回っており、キャリア教育や道徳教育の充実を図る必要があります。
- ・学校の宿題については、4学年で県平均を下回るという結果でした。特に中2、中3は県平均を大きく下回っていました。
- ・平日読書を30分以上している児童生徒は全学年で県平均を下回っています。また、平日全く読書をしていない子どもは、学年が進むごとに増えており、中学生では県平均を大きく上回っています。
- ・携帯・スマートフォンの利用時間については、平日2時間以上利用している子どもが、学年が進むごとに増えており中学生になると県平均を大きく上回っています。
- ・テレビゲームや携帯・スマートフォンの利用時間と教科テストの正答率のクロス集計を見ると、全学年で、利用時間が長くなるにつれ正答率が低くなっています。
- ・家庭学習の手引きの効果的な活用を促し、宿題の内容・量の見直しや「自主学習」の徹底など、学校や学年での組織的な取組、さらには小中連携の取組を進めていきます。

[資料]

平成 30 年度全国学力・学習状況調査における学年別の結果

小学 6 年生 国語科

A (知識) テストの結果

全体の概要

- ・県や全国平均とほぼ同じです。
- ・観点別に見ると、読む能力は、全国平均をやや下回っており、書く能力は全国を大きく下回っていました。
- ・問題形式別に見ると、短答式・記述式の正答率が県や全国平均を下回っていました。

B (活用) テストの結果

全体の概要

- ・県や全国平均を下回っていました。
- ・A問題に比べると正答率が低く、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くことに課題が見られます。
- ・記述式問題での無解答率が高く課題が見られます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
聞くこと 話しこと	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に話し合うために、司会の役割を捉えることに課題が見られます。 ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えと比べるなどして考えをまとめることに課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの際は、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら聞き取るように指導することが大切です。また、自分の考えをまとめさせる活動を取り入れる必要があります。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題が見られます。 ・伝記を読んで、心にのこったことについて自分の考えをまとめる問題では、無解答率が 15% を上回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の単元以外にも書く活動（考えをもつ・振り返りを書くなど）を取り入れることが大切です。 ・家庭学習として、テーマ日記や新聞記事への一言コメントなど毎日少しずつでも書く活動を取り入れる必要があります。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝記の学習では、伝記に描かれた人物の行動や生き方と自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、自分の生き方について考えることができるようにすることが大切です。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題の正答率が低いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに「誰が」「いつ」「何を」「どのように」「なぜ」などという文の構成について理解できるように指導することが大切です。

小学6年生 算数科

A (知識) テストの結果

全体の概要

- ・ 県や全国平均とほぼ同じです。
- ・ 数量関係については全国平均を大きく下回っていました。
- ・ 観点別に見ると、技能、知識・理解とも県や全国平均とほぼ同程度でした。

B (活用) テストの結果

全体の概要

- ・ 県や全国平均をやや下回っていました。
- ・ 観点別に見ると数学的な考え方が県や全国平均より大きく下回っていました。
- ・ 記述式問題では、多くの問題で無解答率が全国平均を上回っており、課題があります。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題は、正答率が 20% を下回っていました。 ・ 日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連付けて論理的に考察し、数学的に表現する問題は、正答率が 30% を下回り、無解答率も約 30% でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を分類整理する学習では、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする活動を取り入れる必要があります。 ・ 日常生活の事象について複数の情報を関連付けて論理的に考察し、数学的に表現したり、条件に合う事柄について適切に判断したりする学習が大切です。 ・ 問題の解き方や考え方の道筋が分かるようなノートの書き方を指導する必要があります。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることに課題があります。 ・ 分度器を用いて 180 度よりも大きい角の大きさを求める問題では正答率が 60% を下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の情報や表やグラフなどを用いて分かりやすく表現したり、特徴を調べたり、読み取ったりする活動を仕組む必要があります。 ・ 角の測定において、測定する角の大きさがどの角であるのかを意識させる必要があります。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の除法の意味についての理解に課題があります。 ・ 単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかを見る問題の正答率が 50% を下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除数が 1 より小さい小数の除法の意味や商の大きさについて説明し合う活動を取り入れる必要があります。 ・ 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方や、単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を捉えさせる必要があります。

小学6年生 理科

全体の概要

- ・県や全国平均とほぼ同じです。
- ・区分別に見ると、A区分のエネルギー、B区分の地球で県や全国平均を下回っていました。
- ・観点別に見ると観察・実験の技能と知識・理解で県や全国平均を上回っていましたが、科学的な思考・判断は県や全国平均を下回っていました。
- ・記述式の正答率が35%を下回っており無解答率も県平均より高い結果でした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題は、正答率が20%を下回っていました。 ・予想がたしかめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できるかどうかをみる問題では、正答率が50%を下回り課題が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠となる実験結果と実験結果を基に解釈したことの両方を表現する活動を仕組む必要があります。 ・自分の予想だけでなく、自分の考えと異なる他者の予想の内容も捉え、その予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通して実験を構想する活動を仕組む必要があります。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ろ過の適切な操作方法を身に付けているかどうかを見る問題では、正答率は県平均を上回っていたものの、無解答率が県平均より高く課題がみられました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器具の操作は、観察、実験で実際に使用することを通して身に付くものであるから、授業では全ての児童にろ過器具等を使用する場面を保障する必要があります。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の骨のつくりと鳥などの骨のつくりとを比較し、曲げる部分やつなぎ目などの共通点や、骨の数などの差異点を見いだすといった、共通性・多様性を見方を働かせ、問題に対応して分析することを意識して授業を改善する必要があります。

中学3年生 国語科

A (知識) テストの結果

全体の概要

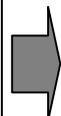
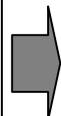
- ・ 県や全国平均を大きく下回っていました。
- ・ 観点別に見ると、話す聞く能力、書く能力が全国平均を大きく下回っています。
- ・ 漢字を書く問題では無解答率が高く正答率も全国平均を大きく下回っていました。

B (活用) テストの結果

全体の概要

- ・ 全国平均を大きく下回っていました。
- ・ 言語についての知識・理解・技能については、全国平均を大きく下回っていました。
- ・ 記述式問題では、全ての問題で無解答率が全国平均を上回っており、課題があります。

観点	小城市の課題
聞くこと・話すこと	・ 話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことや全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことに課題があります。
書くこと	・ 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題では正答率が10%台と低く課題があります。また、相手の的確に伝わるようにあらすじを捉えて書くことに課題があります。
読むこと	・ 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに課題があります。また、文章の構成や展開について自分の考えをもつことにも課題があります。
言語事項	・ 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題があります。 ・ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題があります。



改善に向けたポイント
・ 話合いをする際には、話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめていくことが大切です。
・ あらすじをまとめる際には、目的や意図に応じて取り上げる部分を検討したり、部分同士のつながりが分かりやすく示されているかを確認したりする必要があります。
・ 図表が使われている説明や記録の文章などを読む際は、図表が文章の中心的部分、又は付加的な部分のどの部分と関連しているのかを確認する学習活動を行う必要があります。また、文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、自分の考えをまとめたり深めたりする学習活動を行う必要があります。
・ 多様な語句についての学習では、実際に使われている具体的場面を取り上げてその意味を確認し、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする活動を取り入れる必要があります。

中学3年生 数学科

A (知識) テストの結果

全体の概要

- ・県や全国平均を大きく下回っていました。
- ・観点別では、数学的な技能や知識・技能が、全国を大きく下回っています。
- ・領域別では、関数、資料の活用で苦手さが見られました。

B (活用) テストの結果

全体の概要

- ・県や全国平均を大きく下回っていました。
- ・観点別に見ると、数学的な見方や考え方と知識・技能で全国平均を大きく下回っています。
- ・記述式問題では、全ての問題で無解答率が全国平均を上回っており、課題があります。

観点	小城市の課題
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に解釈し、数学的な表現を用いて説明する問題では、正答率が20%を下回っています。 ・判断の理由や構想を立てて説明する問題では正答率が30%を下回り、無解答率も県平均より高い結果でした。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面で関係を表す式を方程式の性質を利用して目的に応じて変形すること、与えられた比例のグラフから x の変域に対応する y の変域をもとめることは、正答率が40%を下回っています。 ・表などを利用して、確率を求めることや回転移動した図形をかくことにも課題があります。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・一次関数のグラフの特徴、空間における平面と直線との位置関係、絶対値などの意味理解については、県平均より大きく下回っており課題があります。 ・証明の必要性や多数回の試行の結果から得られる確率の意味理解などの正答率が低く課題があります。

改善に向けたポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持たせた上で、自分の説明と他者の説明を比較し、不足する表現を加えさせるなど、よりよい説明にする活動を仕組む必要があります。 ・説明の構想を立てる場面において、問題解決の見通しが持てるよう、どのような根拠を示せばよいのかを考える活動を授業に位置づける必要があります。
<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、xとyの関係を式で表すことができるように指導することが大切です。 ・定着度を高めるために、小單元ごとの評価テストや個別補充、単元末の習熟度別学習など、きめ細かな手立て、指導形態の工夫が必要です。
<ul style="list-style-type: none"> ・傾きが異なる複数のグラフと比例定数を対応させて考察する場面を設定し、傾きの違いが比例定数の違いを表すことを理解できるように指導することが大切です。 ・日常的な事象を数や量で捉えて考える機会を増やすことが大切です。 ・授業において、数学的用語や数学的表現を使って説明させることを意識付け、用語の意味理解を深めることが大切です。

中学3年生 理科

全体の概要

- ・全国平均を大きく下回っていました。
- ・観点別では、自然事象についての知識・理解、関心・意欲・態度が全国を大きく下回っています。
- ・領域別では、地学的領域、化学的領域で苦手さが見られました。
- ・記述式問題では、全ての問題で無解答率が全国平均を上回っており、課題があります。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘する問題では、県平均を大きく下回っていました。 ・問題解決の知識・技能を活用して新たな問題を見いだすことができるかの問題では正答率が31%と低く無解答率も30%という結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象現象の学習では、大気中で起こる様々な自然現象を空間的な広がりの中で捉えさせることが大切です。 ・科学的に探究する活動は理科を学ぶことの意義や有用性を実感する上で大切です。また、探究の過程を振り返り、自ら新たな疑問をもち問題を見いだして、次の探究活動につなげていくことも大切です。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・電流計は回路に直列に接続するという技能については県平均を下回っていました。 ・実験の結果を示した表から電流の値を読み取る問題では、正答率が県平均より下回っており、無解答率も15%という結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回路を作り、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、電流計や電圧計の接続についての技能を身につけさせることが大切です。 ・実験の結果を分析して解釈する際には、課題に正対した考察ができるようにすることが大切です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋高気圧の特徴や地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識については正答率が県平均を大きく下回っていました。 ・オームの法則を使って、抵抗の値を求める問題では、無解答率が18%という結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の学習では、モデルなどを用いて説明しスケールの大きなものを実感を伴って理解できるように工夫する必要があります。

平成 30 年度佐賀県学習状況調査における小城市学年別の結果

小学 5 年生 国語科

全体の概要

- ・小城市の 5 年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・県と同様の傾向として、ローマ字の読み書き問題の無解答率が高く、苦手さが伺えます。
- ・観点別では、書く観点で県平均を大きく下回っています。
- ・書くことの指導方法を改善して学習を行うことが求められます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
聞くこと 話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・司会の役割を考えながら話し合いを進めることや自分の考えと比較しながら聞くことが、県平均を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団での意見交流を日常的に取り入れること、モデルとなる話し合い方を示しわかりやすく話すことを意識付ける必要があります。 ・スピーチタイムを設定するなど、低学年の段階から系統的・累積的な指導を行うことが大切です。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、書くために必要な事柄を調べるための計画をたてたり、目的に応じて、理由を挙げて自分の考えを書いたりする問題で県平均を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く場面では、書く目的や内容など活動の見通しをもたせる必要があります。 ・字数や文末表現などの条件を設定して、条件を満たした文を書く活動を計画的に取り入れる必要があります。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を踏まえ、引用や要約をする問題では、正答率が 20% 台でした。 ・叙述を基に、登場人物の気持ちを捉えることが県平均を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードや図を使って段落相互の関係を捉えさせたり、中心となる事柄を捉えて要約させたりする活動を取り入れる必要があります。 ・一つの場面だけの叙述を対象とするにとどまらず、複数の場面を比較したり、物語全体の叙述を関係付けたりして読む活動を取り入れる必要があります。
知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語を捉える問題では、正答率が県平均を下回っていました。 ・ローマ字を書いたり読んだりする問題では、無回答率が 10% を上回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年から国語辞書を常に手元に置き、各教科等の学習や日常生活の中でも積極的に活用する習慣をつける必要があります。 ・意図的にローマ字で書かせたり、タブレットでローマ字入力をさせたり等、ローマ字に触れる機会を増やす必要があります。

小学5年生 算数科

全体の概要

- ・小城市の5年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・観点別では、全観点で県平均を下回っています。
- ・領域別では、数量関係、図形、数と計算で県平均をやや下回っています。
- ・知識や技能を活用して考え、求め方や根拠を図や式、言葉で説明する力に課題があります。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・示された説明を解釈し、おはじきを正方形の形に並べた場面に適用して、使われたおはじきの数の求め方を説明する問題は、県平均を大きく下回っています。 ・示された条件を基に考える問題では正答率が40%台で、無回答率が5%を上回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表、図、式を関連付けながら説明させること、判断した理由や根拠を明らかにすることを重視し、算数的表現力を高める必要があります。 ・電子黒板で模範となる児童のノートを提示する等、継続的に徹底して思考の道筋が見えるノート指導に取り組むことが大切です。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・四則が混合し、()を用いた式の計算や除数が2位数で、被除数が3位数の除法の計算、数を四捨五入して、上から2桁の概数で表す問題では、県平均を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに習熟の時間を確保し、技能の定着を図る必要があります。 ・特設タイム等を活用して、正確さやスピードなど個に応じたためあてを持たせ、スキルの向上に努めることが大切です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの位置の表し方や展開図を組み立ててできる立体の辺の位置関係の理解に課題がみられます。 ・整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係の理解が課題です。 ・図形領域における空間認知力を身につけることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に算数用語を使って説明する活動を意識して取り入れる必要があります。 ・正しい解答だけでなく、誤った解答も意図的に示すなど、どうしてその解答では正しくないのかを説明する活動を仕組む必要があります。 ・学習を振り返ることができるよう既習内容を掲示する等、学習環境を工夫する必要があります。

中学1年生 国語科

全体の概要

- ・小城市の中学1年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・観点別では、知識・理解・技能が県平均をやや下回っています。
- ・無解答率は県平均とほぼ同じですが、漢字を書く問題では無解答率が12%でした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
聞く・話す	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を明確にして、理由を挙げながら話す問題では正答率が40%台と低く課題がみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿やスピーチメモなど模範となる例を示し、構成の仕方について理解させることが大切です。また、話す活動の後に自分の発言や友達の発言について、話の構成や内容、話し方などの評価の観点を明確にして振り返る時間を授業に位置づける必要があります。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書く問題では、正答率が40%台と低く無解答率も高くなっていました。 ・また、相手が読んで理解しやすいように、よりよい表現に書き直す問題も正答率が50%でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の目的や引用した部分と自分の考えとの関係を明確にするなど、書く目的や意図を理解できるようにする必要があります。 ・書いた文章を生徒自身が推敲するだけでなく、互いに読み合っってよいところを伝え合う活動を取り入れる必要があります。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語に注意して読み、事実と事実の関係を捉えることに課題があります。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、様式に合わせてまとめることについては、正答率が60%台で、無解答率も高くなっていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由や根拠、筆者の主張などが書かれている形式段落や文と文のつながりを捉えさせて読ませる必要があります。 ・言葉を手掛かりにしながら登場人物の言動や情景描写などに着目して読むように指導することが大切です。
知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく書くことは、無解答率が高い傾向にあります。 ・文の中における主語を捉える問題では正答率が40%台でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文や文章の中で、漢字のもつ意味を考えながら適切に使うことができるように指導することが大切です。 ・述語に照応する主語を見つけたり、主語が省略されている文に主語を補ったりする活動を仕組む必要があります。

中学 1 年生 数学科

全体の概要

- ・小城市の中学 1 年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・観点別でも、全観点で県平均とほぼ同じです。
- ・無解答率は県平均とほぼ同じですが、県と同様の傾向として、活用に関する問題の苦手さが伺えます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・長方形と正方形を 2 等分する考えを基に、示された式が正しい理由を説明する問題では、正答率が 30% 台と低く、無解答率も県平均よりも高くなっていました。 ・示された情報を基に、正しい帯グラフを考える問題では、正答率が 30% 台と課題がみられました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式や結果の数値の意味を考える活動を設定する必要があります。 ・文章問題から必要な情報を取り出し、既習事項や問題場面などに関連付けて、考えの根拠が伝わるように書くこと、図や言葉を用いて説明することを重視した授業を仕組む必要があります。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・分度器を用いて 180 度より大きい角の大きさを求める問題では、正答率が 40% 台でした。 ・縮図上の長さから実際の長さを計算で求めることや減法と除法が混合した分数の計算をする問題では正答率が 50% 台でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での既習内容で課題の見られる除法と除法が混合した分数の計算や長さや体積の単位換算の学習については、個別の実態に応じた放課後補充学習などきめ細かな対応が必要です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・円周の長さの求め方の理解については正答率が 40% 台と課題がみられました。 ・除数が分数や小数の除法において、被除数と商の大きさとの関係についての理解については、正答率が 50% 台と課題がみられました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的用語や基本となる知識の習得については繰り返し復習させる必要があります。 ・除法における被除数と商の大きさの学習では、具体的な問題場面と関連付けながら、式や計算結果の数値が表している意味を考えさせる必要があります。

中学2年生 国語科

全体の概要

- ・小城市の中学2年生の平均正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・観点別に見ると書く、読む、知識・理解・技能で県平均を下回っています。
- ・書く力、読む力をつける取組が重点課題です。
- ・県と同様の傾向として、漢字を書く問題の無解答率が約20%と多く、苦手さが伺えます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
聞く 話し	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が言いたいことを確かめ、必要な情報を聞き出す問題では正答率が県平均より下回っています。 ・話題を捉えて相手の発言を注意して聞く問題についても正答率が50%台でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く場面や話合いの場面で、相手が何を伝えようとしているのかを話のまとめりに整理するような言語活動を授業に位置づける必要があります。 ・互いの発言を検討したり、合意形成をしたりする場面を授業の中で意図的・計画的に設定する必要があります。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを根拠に明確にして書く問題では、正答率が県平均を下回っており、無解答率も高い結果でした。 ・表記を確かめて正しい文にする問題では、正答率が50%でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り説明を書く、学習の振り返りとして分かったことや考えたことを書くといった目的や意図に応じて書く活動を意図的に仕組む必要があります。 ・書いたものについて、生徒自身が読み直すだけでなく、推敲の手引きなどを基にして、互いに修正したり訂正したりするような活動を仕組む必要があります。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情や行動に注意して読むことは県平均を下回っており、正答率も50%台でした。 ・文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題では正答率が30%を下回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導事項」「言語事項」「単元の中心となる思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるように授業を仕組む必要があります。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく読む問題や書く問題では、県平均を大きく下回っています。 ・文の成分や歴史的仮名遣いの理解については正答率が40%台でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、漢字を意識的に使うこと、新聞を読む機会を増やして語彙を豊かにすることが大切です。 ・文の成分に関心をもつことができるように、書いた文章を読み返す際に、語順や語の照応による表現の違いについて検討する学習活動を取り入れる必要があります。

中学2年生 数学科

全体の概要

- ・小城市の中学2年生の平均正答率は、県平均と同じです。
- ・観点別に見ると知識・理解で県平均を下回っています。
- ・県と同様の傾向として、活用に関する問題の無解答率が約20%と多く、苦手さが伺えます。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する問題では、正答率が10%台と低く、無解答率も30%台でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を多面的に見ることができるようにするために、生徒同士で自分の考えを説明し合い、根拠を適切に示して説明できているかを確認し合う活動を取り入れる必要があります。 ・実生活における問題を、数学を活用して解決する場面を設定し、具体的な数を用いて式に表す活動や、表した式の意味を読み取る活動を授業に位置づける必要があります。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の大小関係を不等式に表す問題や扇形の弧の長さを求める問題では、県平均を大きく下回っています。 ・錐体の体積を求める問題では、無解答率が高く、正答率も30%を下回るという結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・錐体と柱体の体積の関係では、模型などを用いた実験で確かめるなど、実感を伴って理解することができるような活動を授業に位置づける必要があります。 ・方程式を解く際に、移項などの手続きを形式的に行うだけでなく、等式の性質を根拠にして式変形していることを理解できるように指導することが大切です。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数にまで拡張した数の範囲での、数の大小関係については、正答率が県平均を大きく下回っていました。 ・比例のグラフ上にある点の座標の値と式の関係の理解や近似値と誤差の意味理解については、県平均より下回っており正答率も40%台という結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導を重視し、一時間ごとの学習内容のポイントを整理して、いつでも自分で既習内容を振り返ることができる学習履歴として活用させる必要があります。 ・数学的用語や基本となる知識の習得については繰り返し復習させる必要があります。